

第4回 フリートークの会

平成 18 年 7 月 11 日 参加者 11 名(女性 10 名、男性 1 名)

院長 今日ではフリートークの会にご参加ありがとうございます。

皆さん、いろいろ考え、悩み等おありでしょうが、一人で抱え込まずにこの場でお話いただければと思います。人はいずれ終わりが来るものですが、生きている毎日が勝負ですから、より良い人生と長寿を全うして頂きたいと思います。

A さんをご紹介します。A さんは子宮体がんの再発で帝京医大病院からの紹介で当クリニックへ来院されました。現在抗がん剤治療により腫瘍の大きさが半分ほどに縮小してきております。ご本人の治ろうという強い意志と共に、ご家族の協力があってこそのことと思います。

○はじめに当クリニックに通院中の A さんご夫妻のお話

A さん 3 年前に帝京医大で子宮体がん手術を受け、瀬戸病院で診てもらっていましたが、再発がわかって帝京医大病院から当クリニックを紹介され、今回で通院 7 日目。がんの自覚症状は水のようなおりもの（水様帯下）があり、瀬戸病院で診てもらいがんの疑いとのことで帝京医大を紹介され、医師には「これだけで（水様帯下だけで）よく病院に来ようと思ったね」と言われた。水様帯下だけで病院に来る人は珍しい。それだけ見過ごしやすい症状とのこと。その後左の足が腫れ始める（浮腫）。当クリニックで治療を受け、3 日前くらいからリンパの流れが良くなって来ている。

A さんのご主人

治療はもちろん、日々の生活の中で心を癒してくれるものに触れたり、和やかにすごす事が大切。暗くなってしまうと良くない。笑うようにする。だから自分も駄洒落を言ったりバカな話をしたりして一緒に笑うようにしている。笑いは免疫力を高めると言われているので、明るく過ごすように心がけることが大切だと思っている。

A さん ただ脱毛が・・・

A さんのご主人

女性にとっては髪は命というくらい大事だろうから、毛が抜けるのは端で見えても辛い。

A さん でも毛はまた生えるから。

院長 サキソールという抗がん剤でどうしても毛が抜ける。これは乳がんでも使用する抗がん剤で、関節痛、筋肉痛が出る。婦人科がんは骨には転移しにくい。

○参加者の方々から婦人科がんについてのさまざまなご質問が出され、院長がそれについてお答えしました。

・子宮体がんの初期症状、自覚症状と検査について

院長 子宮体がんは筋層に覆われているため異変に気づきにくい。A さんのように、水のようなおりもの（水様帯下）で異変に気づき、よくこの時点で気づいたと医師に言われたように、早期発見が大原則。ただ子宮体がんの検査は、ブラシで子宮内膜の細胞を採取して調べるのだが、がん細胞にブラシが当たらないと採取できず、異常なしとなってしまう。卵巣がんも発見されにくい癌だが、自覚症状があっても、1 回検診を受けて発見されなくても、3 回くらい受けてみたほうがよい。3 回目で癌が見つかった例もある。

MRI、CT で病巣がどこまで行っているかわかる。

- ・抗がん剤はずーっと飲み続けても大丈夫か？

院長 抗がん剤にもよる。短期間に集中的に使用するものと、ホルモン剤などに代表されるような長い時間をかけて間断なく使用するものがある。しかし飲み続けると耐性が出来てくる。1、2年が限度。

- ・抗がん剤が効かなくなるのはどのようにして判断するのか？

院長 腫瘍マーカーの値が上がってくる。

- ・当クリニックは、抗癌剤治療による治療に力を入れている。治療しながら外部とのふれあいを欠かさないほうがいい。日常生活から切り離れないほうがいい。

○参加者の皆様からは癌の再発や体調などに関するさまざまな不安や疑問などが聞かれました。

- ・再発者の生存率がデータで分かるとうれしい。闘病中の人の生活ぶりを知りたい。

- ・12年前、乳がんでステージⅠだったので抗がん剤治療を受け良くなった。1年半前胃がんを発病、胃を手術で1/3切除。医師によると「転移ではなく別個のもの」とのこと。

その後右足の股関節が痛み出し、昨日（7/10）検査を受けた。結果は3日後。もし転移だったらと不安でたまらない。

- ・12年前（平成6年）に右の乳がんの温存手術を受けた。その後放射線の治療を受け治癒。しかし12年も経って首の左側に腫瘍が出来た。放射線の後遺症とのことで、まれにこういうことになる人がいるとのこと。手術で取り去るしかない。術後、腕のマヒあるいは斜頸になるか、と言われている。

- ・院長 ステージⅢの乳がん患者。温存手術を受け、抗がん剤をとっかえひっかえして再発し、2度目の手術、その後、胸骨・肋骨・肺に転移。そのような状態で当クリニックに来院。

新しい投薬方法を試してみる。明日（7/12）が2回目。

痛み止めに麻薬を投与されているが、その副作用もよく説明されないまま投与されているため、本当は食間などの空腹時に飲むのが正しいのに、胸がむかむかするから食後に飲んだほうがいいのかと食後に飲んで吐いてしまったりしている。それで痛み止めに飲まずに痛みを我慢するようになってしまってる。癌の痛み止めに使われる麻薬を、麻薬中毒になるのではないかと服用を拒む患者さんがいるが、癌の痛み止めに使われる麻薬は中毒にはならないので、安心して使用して欲しい。

痛みを我慢するのは、病気にも本人の生活のためにもよくない。痛みをそのままにしておくと QOL（生活の質）を維持することができなくなってしまう。

○この他さまざまなお話、心境、ご質問が出され、予定の時間を上回る意義ある会とすることが出来ました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

以上このような話合いを毎月1度、当クリニックで開いております。この会はオープンですのでがん患者様およびそのご家族ならどなたでも出席できます。お問い合わせの上奮ってご参加ください。